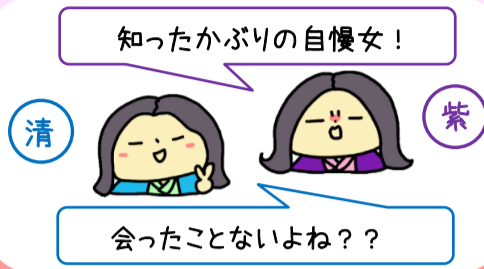


『枕草子』の清少納言と『源氏物語』の紫式部。
日本史の授業でなにかとニコイチで覚えさせられた
平安女子の大先輩二人に、今回はズームイン！
ところで有名な話とは言え、千年も前の日記に書いた
清少納言への悪口のことをずっと言われやなあかん
紫式部めっちゃ不憫やから、みんなも気い付けよな。



イワイ
図書館ビギナー
女のケンカに割って入る
度胸はない



えーちゃん
ベテラン図書館ユーザー
すきな源氏ガールは
六条御息所



カナちゃん
えーちゃんの友達
すきな源氏ガールは
紫の上



まゆみちゃん
図書委員
すきな源氏ガールは
浮舟

特集

清少納言と紫式部

～ふたりは女房～

※ そもそも女房って? えーちゃんによる解説 ※



むかしむかし、平安時代中期…
いち貴族が政治的権力を握る方法、それは…
娘を天皇に嫁がせて男の子を産ませることでした。



初っ端から身もフタもねえ…



天皇家のじいじとして政治に参加する、
いわゆる「摂政・関白」の座を狙ったというワケ。
たくさん居るお姫さまの中から自分の娘の元へ
天皇に通ってもらうために、優秀な女性を集めて
娘の話し相手や教育係をさせとったん。

天皇がつい遊びに来たくなるような
魅力的な空間を作りあげる人材の確保が
重要なことやと思われとったんよ。



とまあこんな風にお姫さまの側で仕えるのが
「女房」と呼ばれるひとたち。
清少納言も紫式部もそんな身分の高くない
受領階級の娘やったけど、光るものがあるって
お呼びがかり、女房になったとさ。



(なんか日本史でやったような
単語がガンガン出てくる…)



ところで、当時の身分のある女性は
軽々しく他人に顔を見せてはいけないもの。
一方の女房は顔出ししながら前に出て仕事をせなあかん…
のもあってか、世の殿方にはウケがよくなかったみたい。
いつの時代も働く女子に世間は厳しいんやな～

※ ふたりが仕えたお姫さまのおはなし ※

定子(ていし)ちゃん
藤原道隆の娘。
ウィットに富んだ
やり手のお姫さま



定子ちゃんに仕えた清少納言。
彰子ちゃんに仕えた紫式部。
彼女たちが生きた平安の歴史を
少しだけ紐解いてみましょう。



彰子(しょうし)ちゃん
藤原道長の娘。
父に良いように使われて
ばかりと思うなよ

時の帝、一条天皇最愛の后は
関白藤原道隆(みちたか)の娘、定子ちゃん。
清少納言は定子と共に過ごした
華々しい宮廷生活を振り返り、
『枕草子』にしたためました。

ところが道隆が病死すると一変。
定子の兄伊周(これちか)と
叔父道長(みちなか)の間で
権力闘争が勃発。
勝利は道長の手へ渡ります。

父は病死、兄弟は不敬事件で島流しと
後ろ楯を失くした定子ちゃん。
一条天皇に愛され続けるも、
出産時に命を落としてしまいます。
こうした定子にとってつらい現実
は『枕草子』ではほぼ触れていません。

一方勝利した道長は
娘、彰子ちゃんが産んだ皇子が
天皇の後継者に選ばれるなど
この世の春街道をまっしぐら。
とある酒の席でのイキりきった歌が
今も残されています。

この世をばわが世と思ふもち月の
かけたることもなしと思へば

紫式部は彰子の皇子出産の様子を
「紫式部日記」に残しました。
この中に清少納言への悪口やら
お嬢様ぶって仕事ができない
同僚への不満やら諸々が
書いてあるワケで…



宮仕えの時期がズレれているため、
清少納言と紫式部の二人が
直接顔を合わせることはなかった
のではないかとされています。

ミーハーパリピ属性の陽キャ女子

清少納言



ドロドロ内に溜めすぎるネガティブ女子

紫式部



家族とか

バツイチ。元夫と仲は良かったけど、鈍感さに嫌気がさしてヤツのめっちゃ嫌いな和歌を送って引導を渡したりした

母姉早逝。父は長い間無職だったりド田舎に飛ばされたり。夫とは結婚3年で死別。ひとりで娘を育てると？

女房という仕事

バリバリのキャリアウーマンなアタシ！
世のお嬢さん方も宮仕えして世間を知りなさいな

世間の目が気になる…向いてない…
無理…マジしんどい…

どんな性格？

「お坊さんはイケメンじゃないと！」
「身分の低い人間の家に月の光が差し込むなんて勿体ない！」
とかついつい書いちゃう…一応反省もするのよ

父に「お前が男だったら」と嘆かれるほど頭良いけど、
世間体が悪いのでアホのフリをしています…

モテた？

気の利いた受け答えをしてインテリ貴公子たちに
時にほめられ、時に口説かれたアタシ!!!

口説かれても相手にしませんでしたともオホホ

普段なに考えてる？

どんなにつらいことがあっても
白い紙と筆さえあれば生きてゆける気がする

気持ちよさそうに水に浮かんでる水鳥も
本当はつらいのでしょうね…わたしもしんどい…

百人一首の歌聞かせて

夜(よ)をこめて 鳥の空音(そらね)は はかるとも
よに逢坂(あふさか)の 関(せき)はゆるさじ

めぐり逢(あ)ひて 見(み)しやそれとも わかぬ間(ま)に
雲隠(くもがくれ)にし 夜半(よは)の月(つき)かな

三蹟の一人、藤原行成とのやりとりの中で詠んだの。
中国の故事を知らないと意味わかんないかもね…

久しぶりに会えたと思ったら月と競い合うように
いなくなってしまったわたしの幼馴染…

二人ともキャラ立ちすぎやろ！
ちなみにアンタは
どっち派なん？



…ノーコメント



【参考文献】

- 『平安ガールフレンズ』 酒井順子／著 KADOKAWA (910.23/サ)
- 『こころきらきら枕草子』 木村耕一／著 黒澤葵／イラスト 1万年堂出版 (914.3/キ)
- 『枕草子 (NHK「100分de名著」ブックス)』 山口仲美／著 NHK出版 (914.3/ヤ)
- 『寂聴と読む源氏物語』 瀬戸内寂聴／著 講談社 (913.36/セ)
- 『私が源氏物語を書いたわけ』 山本淳子／著 角川学芸出版 (910.23/ヤ)
- 『ときめき百人一首』 小池昌代／著 河出書房新社 (911/コ)
- 『世界伝記大事典:日本・朝鮮・中国編 4 て〜ほう』 ほるぷ出版 (R/280.3/セ/4)
- 『世界伝記大事典:日本・朝鮮・中国編 5 ほく〜わ』 ほるぷ出版 (R/280.3/セ/5)

※世界伝記大事典はふるさと文庫で読んでね！

YA・伊勢図書館
ツイッター

@selibYa